



すべてに ^{やさ}優^く

いつまでも ^{ゆとり}悠^{ある}

やすらぎの ^{ばし}邑^{であります}であります

2025
春 号

「今日も楽しかった」と
言っていただけに…

令和7年度指針

社会福祉法人 杉和会 理事長 若山 宏

物価高と職員確保の難しい中であっても、入居者さん利用者さんには間違いなく法人理念である『すべてにやさしく いつまでもゆとりある やすらぎのばしょでありたい』と『今日一日 楽しかったよ』を形にするために月一回の三施設合同幹部会で話し合った事を各施設に持ち帰り確実に実施していく事をより確固なものにしていきたい。そのためには職員一人ひとりのスキルを上げる支援を今まで以上にしていきたい、それによってそれぞれの職員とモチベーションが上がる仕組みを確立して実施していく。健全な経営が健全な運営になると言う事で本部施設も和合の施設も入居稼働率を97パーセント以上にするために職員が一丸となれるように徹底していく。また盲養護老人ホーム和（なごみ）の50床の事業が開始できるようにしていきたい。物価高については入居者さんへのサービスが劣化しない配慮をしつつも、なお一層の節約に取り組んでいく。職員のスキルアップについては業務の効率化の為に生産性向上によるロボット・ICTの導入で余裕が出来た時間を寄り添いケアの充実に当てて、やりがいのある職場になるように努めていきたい。もう一つ大切なものとして今まで以上に地域貢献できるメニューの実践により地域からの信頼をより高めていきたいと考えています。

関ヶ原 指針

トランスファア委員会 委員長 伊藤 丘彦

職員全員がトランスファアテクニックをしっかりと学び、実施して介護することで、入居者・利用者様の身体的・精神的負担を軽減するだけでなく、職員の負担も軽減をはかり、毎日をおたがいに笑顔で楽しく過ごせるよう活動していきます。また、常に適正な介助の方法や道具の使用について検討し、見直しを図っていききたいと思います。

感染症・褥瘡委員会 委員長 早瀬 友貴

褥瘡をつくらないためには、様々な面から考える必要があります。食事が摂れていないのであれば管理栄養士に相談、自分で体の向きが変わらない等で褥瘡のリスクがあるのなら介護職員と看護師で対策を立て、褥瘡をつくらないように予防計画を作成します。治りが遅い場合は看護師と相談し早期の改善に努めます。

行事委員会 委員長 グエン チョンカン

目標として、年間を通じて季節を感じられる行事を実施していきます。入居者様が安全に楽しめる事を最優先とし、常に新鮮な体験を得られ、心身ともに充実した日々を送れる様、支援していきます。全ての行事において安全管理、感染対策を徹底していきます。

食事委員会

委員長 村瀬 智美

「食事中の雰囲気を楽しむ、かつ安全に食事をして頂く」を目標にしていきます。

月一回のバイキング料理の実施はもちろんの事、普段の食事では食事姿勢や咀嚼・嚥下にも目を配り、声かけなどを通して安全で楽しい雰囲気作りをしていきます。また、大釜を使った筍ご飯や味噌汁作りや芋煮会などのイベントも行い、食を通して楽しい思い出を作って頂くように尽力していきます

排泄委員会

委員長 笹野 忠

利用者の方々が毎日笑顔で快適に過ごして頂けるように、日頃の言葉遣いや介助の仕方を丁寧に行っていきます。また、排泄マネジメントを活用して一人一人に合った排泄ケアを検討し、提供していきます。排泄ケア用品の正しい使い方を学び、実施していきます。

入浴委員会

委員長 桐山寿美子

今年度は、入居者様・利用者様に気持ち良く入浴していただける環境作りに取り組んでいきたいと思っています。楽しみにされている季節風呂は勿論、入浴時間を楽しんで頂くために季節を感じるような、脱衣所などの環境整備をする事で、安心・安全に快適な入浴が出来るようにしていきます。

和合 指針

虐待防止対策委員会

委員長 北島 賢治

入居者・利用者様に安全に過ごしてもらえようように、職員の方には正しい知識を得てもらえるように研修会を開催し学んでもらいます。普段から不適切なケアが気づかないうちに当たり前になり継続することで虐待につながりやすくなります。そうならないように、自分たちのケアを普段から振り返る体制づくり、職員全員で指摘できる環境づくりを行っていきます。そして、入居者様に「今日も楽しかったよ。」と言ってもらえる施設を目指します。

身体拘束対策委員会

委員長 坪井 寿夫

ただ「身体拘束をしない」ではなく、「だから、身体拘束をしない」と入居者様の尊厳と安全を最優先に理解したうえで、代替手段を検討し、職員と入居者様の信頼関係を損なうことなく、身体拘束の廃止を目指します。そのためには職員の研修を通じて、適切なケアを提供し、入居者様の生活を守っていきます。



余暇・行事委員会

委員長 藤本 二三子

利用者様の「やりたい」「やってみたい」「こんな所に行ってみたい」という思いに寄り添ったワクワクする企画を行います。利用者様に、季節を感じていただけるイベントや、外出レクで、「楽しみ」や「生きがい」を感じていただきながら、残存能力を活用して、心身を活性化していただけるよう努めてまいります。明るく、元気に希望をもって、積極的な日常生活を送っていただけるように、社会との繋がりを外の空気を体感していただき、「人生を楽しんでいただくための心の栄養補給」となる余暇・行事活動を目指します。

生活向上・接遇委員会

委員長 西竹 流星

生活の質とは単に身体的な健康状態だけでなく、普段の生活の中で、利用者様が感じる満足感、安定感、幸福感をいかに見出せるか。施設で過ごしていく中で、小さな楽しみとしての工夫を積み重ねていくことで活気に繋がっていきます。利用者様の視点に立ったケアを行っていく上で三大介護の見直しを含め、ただ「業務をやるだけ」というのではなく、どうして介助が必要なのか、という所に着目し根拠を取り入れながら、知識や技術の向上に向けて基礎研修を重点的に実施していきます。

リスク対策委員会

委員長 岩田 康嗣

介護していくうえで、事故に繋がるような、ふとした所作などを見つけた際に、いかにその時点で色々な手立てを考えていくかが大きな事故に繋がらない為には大切です。昨年に引き続き気づきを増やして行けるようにしていくとともに、その手立ての数を各職員が増やしていくけるよう危険予知訓練などを行いたいと考えています。

感染症対策委員会

委員長 鹿野 里枝子

昨年度はコロナウィルスのクラスターが発生してしまいました。今年度は再度感染症対策を周知し職員の意識を高め、クラスターが発生しないよう取り組みます。重要なのは予防なので、手洗いや手指消毒を徹底し、定期的に感染症に関する研修を行い基本的な知識、対応方法を学んでいきます。

褥瘡対策委員会

委員長 堀 貴美

高齢者は低栄養状態や、活動力の低下に伴い寝たきりに陥りやすく、褥瘡が発生する可能性が高くなります。褥瘡予防、早期発見の為、多職種と連携し評価を行い、日常的ケアにおいてよりよい適切な介護、看護のケアが行えるよう目指していきます。

地域貢献委員会

委員長 駒月 智美

昨年度に引き続き、職員による月に一度の施設周辺の清掃活動を継続して行い、地域の環境美化に努めます。また、地域のお祭りに参加したり近隣の保育園と合同開催する「作品展」をより充実させ、地域の多くの皆さまと交流が図れるようにしていきます。



和(なごみ) 指針

身体的拘束等対策委員会

委員長 尾花 あかね

利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識をもち、緊急やむをえない場合を除き、身体拘束をしない支援を行います。定期的に職員研修を実施し安心、安全な生活環境を整えていきます。

虐待防止対策委員会

委員長 尾花 あかね

虐待は人権侵害であるという認識のもと、利用者の尊厳の保持・人格の尊重を重視し、虐待の防止とともに虐待の早期発見・早期対応に努めます。

定期的な研修の企画、実施を行い適切な知識の普及・啓発を行い、日常生活の中から虐待につながりそうな件についてはヒヤリハットと、研修を実施し予防に努めます。

事故防止対策委員会

委員長 堀江 忠史

入所者様の安心・安全な暮らしの為に、日々どのようなリスクがあるのかを委員会にて検討し、事故がゼロを目標に取り組んでいきます。その為にヒヤリハットを活用した気づきを増やし、委員会メンバーで早急な対策、予防を行い事故に繋がらないようにしていきます。また、毎月適切な評価を行い、各職員へ周知・徹底が出来るよう努めてまいります。

災害対策委員会

委員長 武藤 朝記

近年、様々な大規模災害が発生しており、万が一に備えることが今以上に重要となっております。毎月行っている避難訓練ですが、夜間を想定したものや避難場所をいつもとは違う場所にしたりと、様々な状況を想定し今後も行っていきます。避難訓練や研修を実施することで災害発生時に速やかに対応でき、入所者様が安全に避難できるよう体制を整備していきます。

感染症対策委員会

委員長 竹之内 弘美

感染予防、再発防止対策の適切な対応など、施設における感染症予防対策の体制を確立し、適切かつ安全で質の高い支援の提供を図ることを目標とします。施設での感染症の発生や感染拡大を防止する為に手洗いや排泄物、嘔吐物の適切な処理、職員を媒介して感染を拡大させないように各種研修を実施していきます。

生活向上・接遇委員会

委員長 大岡 尚子

今実施している支援・設備面・ルールを見直し、入居者様の生活の質の向上や安心・楽しいと感じて頂けるような生活を送って頂けるよう努めていきます。処遇計画に基づいた個別支援ができるよう入居者様と取り組んでいきたいです。接遇については、視覚障害の方への声のトーンや立ち位置等の研修を再度行い、初心に戻り接することができるようになります。

地域貢献委員会

委員長 神谷 若子

和が開設し五年目を迎え、少しずつですが地域の方々に理解されてきています。こども見守り隊や地域の清掃といった活動に加え、地域に開かれた施設を目指し気軽に交流できる場を作り、関心を持ってもらう事で認知度を高め、より深く地域の方々と繋がりが持てたらと考えています。また、入所者様が施設外の社会との繋がりを感じられることで生活が充実するよう支援していきます。